

オアシス通信



信仰の励ましと祝福

ガブリエルソン師



癒しのみ業

四月二十三日の聖日に、スウェーデンからの宣教師として長年ミャンマー、インド、ネパールで働いてこられたタツチング・アジア代表のハカソン・ガブリエルソン師を迎えて午前の特別礼拝と午後10時の聖会が持たれ、信仰の励ましと多くの祝福をいただきました。

午前には、「福音の力」と題して、ローマ1・16-17より「今、世界中でたくさん神様のみわざが起こっています。確かに福音には力があります。福音は信じるすべての人に救いを得させる神の力です。神の義とは何でしょう。神のご性質です。この神のご性質をいただくと、この救いのうち

に生きることができません。あらゆる不義、罪からきよめられ神様の前に立つことができません。私たちが新しく造りかえられていく。これこそ、福音の力によることなのです。そしてこの福音を宣べ伝える力も与えて下さったのです。

①イエス様は人々の信仰に応答されています。②イエス様は進んで行動を起こされました。③イエス様はことを成す力がありました。この三つのところに焦点を合わせ、信じていくなら神様の力ある業をみる事ができるのです。私たちがイエス様を見て、イエス様と一緒に歩んでいくとき神様のみこころを知っていくことができます。イエス様には必ずできるという信仰をもって祈っていくとき、御業が起こって行きます」と証しを交えて、力強く語って下さいました。

午後の聖会においては、「祈りの力」と題して、アブラハムやダニエルのように神の約束とご計画に信頼して、神様の時が近づいたことを感じて祈りに励むよう勧められました。ソビエト連邦の崩壊、ミャンマーの民主化などの背後にも執り成しの祈りの力が働いていたことが証しされました。

また聖会の最後には、聖霊のバプテスマや癒しを求める人たちのために祈りのミニストリーの時が持たれ、何人もの人たちが癒され、後で癒しました。

(牧師)



信仰偲び召天者記念会

ご遺族が数多く列席される中、4月16日(日)午前のイースター礼拝に続き午後1時半から、召天者記念会が持たれました。4年前から教会において持たれるようになりました。賛美、祈りの後、故人の slides 写真とともに故人を偲ぶ遺族のひとことが読み上げられました。また、昨年召された故小島寿美子姉の次女の真理姉が故人を偲んで語って下さいました。

記念式の後、ご遺族の希望者とともに春の香りが漂う天の山の墓地を訪れました。

ティーンズで食事の交わり

四月三十日にティーンズで「フオカッチャ・サンド」パーティーを開催しました。新年度になり新しく大学生に入学した子達など十数名が集まりました。みんな大好きな具をいれてサンドイッチを作り、食事の交わりを楽しんだのち、ユース礼拝にも全員が残り、メッセージにも積極的に応答してくれました。

(小山健)



